様式第5号（第8条関係）

**債 権 譲 渡 承 諾 書**

年　月　日

［譲渡人（甲）］　　　　　　　様

［譲受人（乙）］ 　　様

　　　　年　月　日付け提出の（契約番号及び工事名）　　　　　　　　　　工事に係る債権譲渡承諾依頼書による工事請負代金債権の譲渡については、工事完成引渡債務不履行を事由とする請負契約の解除をもって乙に対抗できる旨及び次の事項について異議を留めて、工事請負契約約款第５条第１項ただし書の規定により承諾する。

なお、本承諾によって工事請負契約書に定められた甲の責任が一切軽減されるものではないことを申し添える。

また、甲及び乙は、本承諾以降に前金払、中間前金払及び部分払を請求することができないものとする。

１　譲渡される甲の工事請負代金債権の額は、本件請負工事が完成した場合においては、本件工事請負契約書に定められた検査に合格し引渡しを受けた出来形部分に相応する請負代金額から前払金額、中間前払金額、部分払金額及び本件工事請負契約により発生する発注者の請求権に基づく金額を控除した額とする。

ただし、本件工事請負契約が解除された場合においては、本件工事請負契約書に定められた出来形部分の検査に合格し引渡しを受けた出来形部分に相応する請負代金額から前払金額、中間前払金額、部分払金額及び本件工事請負契約により発生する違約金等の発注者の請求権に基づく金額を控除した額とする。

なお、契約変更により請負代金額に増減が生じた場合には、債権譲渡承諾依頼書５及び９の金額は変更後の金額とする。

２　甲及び乙は、本承諾後、金銭消費貸借契約を締結し、当該契約に基づき融資が実行された場合は、速やかに連署にて発注者に別紙の融資実行報告書を提出すること。

３　甲が、当該工事に関する資金の貸付けを受けるため、保証事業会社による金融保証を受けた場合は、公共工事金融保証証書の写しを速やかに発注者に提出するものとする。

４　当該譲渡債権は、乙の甲に対する当該工事に係る貸付金及び保証事業会社が当該工事に関して甲に対して有する金融保証に係る求償債権を担保するものであって、それ以外の債権を担保するものではないこと。

５　甲及び乙は、譲渡債権について、他の第三者への譲渡、質権の設定その他債権の帰属及び行使を害すべき行為を行わないこと。

６　保証事業会社が有する金融保証に係る求償債権の担保に関しては、乙が責任を持って行うこととし、発注者は関与しないこと。

|  |  |
| --- | --- |
| 揖斐川町長 | 印 |
| 確定日付印欄 | 承諾番号 |
|  |  |